

8. マルチメディア利用に関する研修

新しい機材が教育現場に導入されたとき、もっとも問題になるのはその操作方法の習得である。それがあって、はじめて教育への利用が可能になる。機材が複雑になれば操作方法や教育への利用に関する研修が必要になるわけだが、第1回の調査では、そうした研修を行っている程度とその必要性について、研修の対象者を教員、職員、学生、大学院生、TA・RAにわけてきいた。その結果、学生に対してはある程度実施されていたが、事務職員や教員に対してはあまり実施されていなかった。

そこで、第2回は、教育を行う主体である教員を主たる対象として、研修の種類をいくつか提案してそれぞれについて、実施の有無、研修への参加の程度、研修の必要性の程度に関してきく形式に変更した。まず、どのような種類の研修が実施されているかについて、表8-1よりみてみよう。もっとも多いのは「ワープロ・表計算の利用方法」、「電子メールの利用方法」であり、どのタイプの機関でも50-60%は実施している。ついで、「ホームページの見方」、「データベースの利用方法」であり30-40%が実施している。それとともに「ホームページの作成方法」も「データベースの利用方法」と同程度に実施されている点は興味深い。というのは、コンピュータとインターネットの基本的な操作の関する研修は情報の利用の方法であるのに対し、ホームページの作成は情報の発信のための手段だからである。コンピュータやインターネット関連の研修と比較すると、「パワーポイントの利用方法」、「ビデオの撮影・編集方法」、「デジタル・カメラの利用方法」の研修を実施している機関は少ない。

また、機関の種別による研修の実施比率に大きな違いはないが、大学の設置者別にみると国立において実施している比率が高い。

表8-1. 教員に対する研修の実施の有無（機関別・設置者別） (%)

	大 学				短大	高専
	計	国立	公立	私立		
1. ワープロ・表計算の利用方法	54.5	54.5	47.6	48.9	51.2	62.5
2. 電子メールの利用方法	61.7	71.4	57.8	60.0	45.1	51.8
3. ホームページの見方	44.7	48.1	40.0	44.5	45.1	51.8
4. データベースの利用方法	30.8	44.2	31.1	27.6	30.4	26.8
5. パワーポイントの利用方法	19.9	27.3	22.2	17.9	20.5	32.1
6. ビデオの撮影・編集方法	7.3	13.0	6.7	6.1	6.7	7.1
7. デジタル・カメラの活用方法	7.5	14.3	4.4	6.4	14.4	10.7
8. ホームページの作成方法	35.6	44.2	37.8	33.3	31.7	51.8
9. メーリング・リストや電子 掲示板の作成方法	8.6	9.1	4.4	9.1	7.2	7.1

表8-2は、これらの研修が教員、職員、学生の誰を対象に実施されているかをみたものである。複数回答であるが、これをみるとどの種類の研修も学生を対象に実施されている場合がもっとも多くなっている。それについて職員であり、教員に対して実施される場合がもっとも少ないことは明らかである。また、強いていえば、高専においては他の機関と比較して教員対象の研修が行われていないという特徴がみられる。

表 8－2．研修の対象者（機関別・設置者別）
(複数回答、%)

	大 学												短 大			高 専		
	計				国 立				公 立				私 立					
	教員	職員	学生	教員	職員	学生	教員	職員	学生	教員	職員	学生	教員	職員	学生	教員	職員	学生
1. ワープロ・表計算の利用方法	28.8	55.9	63.3	21.4	54.8	66.7	31.8	68.2	68.2	30.4	54.4	61.8	22.4	34.9	73.4	5.7	51.4	57.1
2. 電子メールの利用方法	35.5	49.5	75.6	29.1	45.5	78.2	38.5	46.2	84.6	36.9	51.0	73.7	30.8	32.3	77.3	21.6	43.2	75.7
3. ホームページの見方	32.2	42.1	76.7	21.6	32.4	78.4	33.3	33.3	83.3	34.7	45.6	75.5	30.8	30.8	78.1	13.8	27.6	82.8
4. データベースの利用方法	36.0	38.8	79.1	26.5	32.4	82.4	50.0	57.1	92.9	37.4	38.5	75.8	22.8	21.1	78.9	26.7	33.3	66.7
5. パワーポイントの利用方法	46.7	33.3	70.0	33.3	23.8	85.7	50.0	50.0	70.0	50.8	33.9	64.4	22.1	10.4	75.3	5.6	5.6	100.0
6. ビデオの撮影・編集方法	42.4	30.3	60.6	40.0	30.0	60.0	33.3	33.3	100.0	45.0	30.0	55.0	24.0	20.0	72.0	25.0	25.0	75.0
7. デジタル・カメラの活用方法	29.4	23.5	55.9	18.2	18.2	63.6	—	—	100.0	38.1	28.6	47.6	13.0	9.3	85.2	0.0	0.0	100.0
8. ホームページの作成方法	42.2	52.8	60.2	44.1	52.9	64.7	41.2	52.9	82.4	41.8	52.7	55.5	27.7	30.3	5.5	20.7	37.9	69.0
9. メーリング・リストや電子掲示板の作成方法	30.8	51.3	43.6	28.6	57.1	42.9	—	50.0	50.0	33.3	50.0	43.3	22.2	44.4	51.9	25.0	75.0	25.0

では、こうした研修は、教員に対してどの程度必要だと認識されているかについて表8-3からみてみよう。どの研修についてもおしなべて必要性は強く認識されている。とりわけ、「データベースの利用方法」、「電子メールの利用方法」、「ホームページの作成方法」が必要だと考えられており、情報を利用すると同時に発信も求められていることがわかる。

また、高専では他と比較して必要性がやや低い傾向があるが、それは教員に対して実施している研修の比率が低いことと符合している。おそらく、高専の場合、工学系の教員が主であるためにコンピュータ関係の機器の操作についてはあまり研修の必要がないのだろう。

表8-3. 教員に対する研修の必要性(機関別・設置者別「とてもそう思う」+「ある程度そう思う」)(%)

	大 学				短大	高専
	計	国立	公立	私立		
1. ワープロ・表計算の利用方法	67.5	60.5	48.4	73.2	73.6	60.7
2. 電子メールの利用方法	73.1	65.9	61.5	77.8	79.5	64.3
3. ホームページの見方	65.3	59.8	46.2	70.4	71.7	41.1
4. データベースの利用方法	81.2	80.7	69.2	83.1	75.7	71.4
5. パワーポイントの利用方法	73.6	68.9	60.4	77.5	66.1	62.5
6. ビデオの撮影・編集方法	51.8	45.6	49.5	54.9	48.3	42.9
7. デジタル・カメラの活用方法	56.4	51.4	47.3	59.9	54.7	37.5
8. ホームページの作成方法	73.4	77.0	61.5	73.4	65.1	75.0
9. メーリング・リストや電子掲示板の作成方法	62.0	62.2	57.1	62.6	55.5	42.9

教員対象の研修の必要性を学部別にみると(表8-4)、どの項目についても家政系学部の必要性は群を抜いて高くなっている。それと対照的に理工学系での必要性は低く、コンピュータの浸透が早かった理工学系では教員は機器操作に慣れている様子がうかがえる。また、家政学系以外では、おおむね人文科学系・社会科学系での必要性が高くなっている。

表8-4. 教員に対する研修の必要性(大学学部別「とてもそう思う」+「ある程度そう思う」)(%)

	人文科学系	社会科学系	教育学系	理工学系	農学系	医・歯・薬・保健系	芸術系	家政系
1. ワープロ・表計算の利用方法	76.0	68.2	64.8	54.4	63.4	68.6	73.3	89.3
2. 電子メールの利用方法	79.5	80.3	77.8	57.3	68.3	66.0	76.7	92.9
3. ホームページの見方	70.5	69.2	74.1	52.6	65.9	61.5	73.3	85.7
4. データベースの利用方法	86.5	83.9	77.8	70.8	80.5	80.1	86.7	92.9
5. パワーポイントの利用方法	78.5	75.9	72.2	61.4	75.6	78.8	63.3	85.7
6. ビデオの撮影・編集方法	56.5	46.8	50.0	39.8	61.0	63.5	53.3	75.0
7. デジタル・カメラの活用方法	62.0	52.2	57.4	47.4	63.4	63.5	53.3	78.6
8. ホームページの作成方法	76.5	75.6	77.8	67.8	73.2	71.2	53.3	92.9
9. メーリング・リストや電子掲示板の作成方法	69.5	61.5	63.0	57.3	61.0	59.6	53.3	78.6

では、これらの研修に教員はどの程度参加しているのだろうか。「積極的に参加している」と「ある程度参加している」の合計を表8-5からみると、「ワープロ・表計算の利用方法」、「電子メールの利用方法」、「ホームページの見方」への参加は20-30%程度あるが、それ以外の研修への参加は低い。また、高専ではどの項目でも参加の度合いが低くなっている。

表8-5. 教員の研修への参加の程度（機関別・設置者別「積極的に参加している」＋「ある程度参加している」）（%）

	大 学				短大	高専
	計	国立	公立	私立		
1. ワープロ・表計算の利用方法	25.4	18.9	19.8	29.0	20.5	14.3
2. 電子メールの利用方法	29.7	22.0	26.4	33.5	24.5	19.6
3. ホームページの見方	24.7	18.2	20.9	28.1	20.3	10.7
4. データベースの利用方法	23.6	19.9	22.0	25.4	13.6	12.5
5. パワーポイントの利用方法	15.9	11.8	14.3	18.0	9.9	5.4
6. ビデオの撮影・編集方法	8.2	5.4	12.1	9.0	4.3	7.1
7. デジタル・カメラの活用方法	8.7	6.4	11.0	9.4	5.6	3.6
8. ホームページの作成方法	17.3	13.9	18.7	18.7	10.4	17.9
9. メーリング・リストや電子掲示板の作成方法	12.2	10.1	12.1	13.2	5.3	1.8

参加の程度を学部別にみると（表8-6）、芸術系で高く、理工学系や教育学系で低い傾向がみられる。これは、必要性の程度が芸術系で高く、理工学系で低いことと符合する結果である。

表8-6. 教員の研修への参加の程度（学部別「積極的に参加している」＋「ある程度参加している」）（%）

	人文学系	社会科学系	教育学系	理工学系	農学系	医・歯・薬・保健系	芸術系	家政系
1. ワープロ・表計算の利用方法	28.0	29.1	22.2	16.4	24.4	22.4	30.0	53.6
2. 電子メールの利用方法	30.5	36.5	27.8	19.9	24.4	26.3	33.3	53.6
3. ホームページの見方	22.5	31.1	14.8	17.0	26.8	19.9	40.0	53.6
4. データベースの利用方法	23.5	28.1	11.1	16.4	26.8	26.3	26.7	35.7
5. パワーポイントの利用方法	13.5	18.7	9.3	14.6	12.2	16.7	20.0	28.6
6. ビデオの撮影・編集方法	9.0	7.0	3.7	4.7	9.8	10.3	16.7	14.3
7. デジタル・カメラの活用方法	10.0	7.4	5.6	6.4	12.2	9.0	13.3	21.4
8. ホームページの作成方法	17.5	17.4	11.1	13.5	17.1	17.9	23.3	42.9
9. メーリング・リストや電子掲示板の作成方法	13.0	14.7	5.6	8.2	17.1	10.9	6.7	21.4

さて、研修に関しては、その必要性和実施の有無と教員の参加の程度をみてきたが、それを機関の種別によって比較しよう（表８－７）。これをみると、どの項目においても必要性が高いことが一目瞭然であるが、その割には実施はそれを満たしていない。必要性に比較的応じているのが、「ワープロ・表計算の利用方法」、「電子メールの利用方法」、「ホームページの見方」であり、「データベースの利用方法」、「ホームページの作成方法」、「パワーポイントの利用方法」は必要だと回答している機関は70-80%であるが、それを実施している機関になると20-30%程度しかない。「メーリング・リストや電子掲示板の作成方法」では、約半数が必要としているのに対し、実施機関は10%にも満たない。これは、教員に対する各種の研修の必要性を感じていても、「ワープロ・表計算の利用方法」、「電子メールの利用方法」、「ホームページの見方」などは対応できても、「メーリング・リストや電子掲示板の作成方法」など一定の知識や技術を必要とするものに関しては、それを教えるインストラクターが学内にいないなどの問題で個別の大学で実施することが困難な状況があることが示唆されている。

必要性和実施の有無に関して、高専は、両者の差が小さく、他と異なる傾向を示している。これは必要性が比較的 low、実施の度合いが高いことによるものだが、実施されているために必要性が低くなっているのか、必要性があまりなくても充分に実施できる体制があるのか、両者の関連は定かではないが、教員の参加度が低いことと、それが教員がすでにスキルをもっていることによると推測されることから考えて、おそらくは、必要性があまりないが、実施できる体制は備えているということになろう。

表８－７．教員に対する研修の必要性・実施・参加のギャップ

	大 学			短 大			高 専		
	必要性	実施	参加	必要性	実施	参加	必要性	実施	参加
１．ワープロ・表計算の利用方法	67.5	54.5	25.4	73.6	51.2	20.5	60.7	62.5	14.3
２．電子メールの利用方法	73.1	61.7	29.7	79.5	45.1	24.5	64.3	51.8	19.6
３．ホームページの見方	65.3	44.7	24.7	71.7	45.1	20.3	41.1	51.8	10.7
４．データベースの利用方法	81.2	30.8	23.6	75.7	30.4	13.6	71.4	26.8	12.5
５．パワーポイントの利用方法	73.6	19.9	15.9	66.1	20.5	9.9	62.5	32.1	5.4
６．ビデオの撮影・編集方法	51.8	7.3	8.2	48.3	6.7	4.3	42.9	7.1	7.1
７．デジタル・カメラの活用方法	56.4	7.5	8.7	54.7	14.4	5.6	37.5	10.7	3.6
８．ホームページの作成方法	73.4	35.6	17.3	65.1	31.7	10.4	75.0	51.8	17.9
９．メーリング・リストや電子掲示板の作成方法	62.0	8.6	12.2	55.5	7.2	5.3	42.9	7.1	1.8

*表８－１、８－３、８－５より作成。

教員の参加は、実施の度合いよりもさらに低くなっている。職員や学生など研修への参加者のうちで、教員の参加度がもっとも低かったことは先に見たとおりである。学生や職員などある程度参加を強制される立場と異なり、おそらく教員の参加は自由な場合が多いと考えられる。それが教員の参加の度合いを低くしている原因だと思われるが、それはまた教育の主体である教員は、各種のマルチメディアを教育に利用しようとする意識があまり強くないことのあらわれとみることもできよう。その問題については、「10. まとめと議論」で再度触れることにする。

(吉田 文)